

日清製粉グループ 連結決算、次期連結業績予想

当期は売上高4,555億66百万円、経常利益247億42百万円。

【平成25年3月期連結決算】

㈱日清製粉グループ本社（社長 大枝 宏之）は、昨年4月より長期的な成長を実現するため、トップライン（売上高）の拡大と海外事業の拡大を最優先戦略とする中期経営計画「NNI-120、スピードと成長、拡大」をスタートし、各事業において積極的な取組みを進めております。

平成25年3月期につきましては、海外景気の減速を背景とした先行き不透明感や長引くデフレ環境により個人消費の低迷が長期化する中、一部には震災復興需要及び政権交代後の政策効果等により景気回復がみられましたが、当社を取り巻く環境は依然として厳しいものとなりました。このような中、各事業においてトップライン（売上高）の拡大に向け、積極的な販売促進施策に取り組みました。また、昨年3月に買収した米国のMiller Milling Company, LLC及び10月に設立した新会社日清製粉プレミックス㈱は順調に推移しております。本年2月には、Goodman Fielder社よりニュージーランド最大の製粉事業を取得し、新たに設立したChampion Flour Milling Ltd.として順調にスタートさせております。更に、総合中食メーカーのトオカツフーズ㈱に出資するなど成長拡大に取り組みました。一方、将来のコスト競争力強化策として、製粉工場の集約に取り組んでおり、昨年5月に九州において福岡新工場の建設に着工し、12月に中部において知多工場に新ラインを増設することを決定いたしました。

なお、輸入小麦の政府売渡価格が、昨年4月に5銘柄平均で15%引き下げられ、10月に同3%引き上げられたことを受け、製品価格改定を実施いたしました。

この結果、当期の業績は、売上高はMiller Milling Company, LLCの連結効果や中食・惣菜、冷凍食品の出荷伸長、医薬品原薬の新規出荷等により4,555億66百万円（前期比103.1%）と増収となりました。利益面では、食品事業において拡販費用を増加したことなどから、営業利益は217億40百万円（前期比94.1%）、経常利益は247億42百万円（前期比94.7%）、当期純利益は136億88百万円（前期比102.7%）となりました。

【平成26年3月期通期連結業績予想】

我が国の経済は、政権交代以降のデフレ脱却に向けた経済・金融対策の効果等への期待から円安や株高が進行するなど、一部には明るい兆しも見られます。一方で高値基調にある国際穀物相場や電気料金値上げ等は円安の影響も相俟って更なるコスト上昇要因となり、加えて平成26年4月に予定される消費増税など、当社グループを取り巻く状況は引き続き厳しいことが予想されます。このような環境下におきましても、当社は国民の主要食糧である小麦粉等の安定供給を確保し、各事業において安全な製品を供給するという使命を果たしてまいります。なお、輸入小麦の政府売渡価格が本年4月に5銘柄平均で9.7%引き上げられたことを受け、業務用小麦粉の価格改定を発表いたしました。

中期経営計画2年目となる本年は、経営環境の変化に臨機に対応するため、適切に見直しを行いつつながら2015年度までの次なる3カ年の目標を明確に定め、各事業において戦略施策を実行してまいります。以上の結果、平成26年3月期の連結業績見通しにつきましては、売上高は4,900億円（前期比107.6%）、営業利益は237億円（前期比109.0%）、経常利益は263億円（前期比106.3%）、当期純利益は160億円（前期比116.9%）としております。